



自助・互助・共助

コンビニや携帯電話のなかった日本の古き良き時代、宅急便もなかったし、酒屋の御用聞きはあったけど勿論ネットスーパーはありませんでした。そんな中で火事や葬式以外にも、切らしてしまった味噌・醤油を隣人に借りるといった互助は我々の生活の中に普通にとけ込んでいました。世の中便利になって、必要な物はすぐ届けてくれるし、宅急便も電話一本で再配達してくれるし、私たちの日々の生活では互助の必要性が薄らいでしまいました。

ところが、いざ大規模な災害が発生するとこうした現代のインフラの堅牢性どこまで機能するのでしょうか？自分の手に余るような危機をどうやったら凌ぐことができるのでしょうか、それはやはり互助と近年の震災は教えてくれます。

互助の基礎となる近隣ネットワークを…

とは言っても、最近顔を合わせる機会がめっきり減ってしまった向こう三軒両隣の方々、ましてやもっと離れた班(ブロック)の方々と話をするのは……。昨今はプライバシーを気にされている方も少なくない様ですし…と考えられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ましてや片瀬山は高度成長期以降に形成された地域です。端正な街並みで、比較的高齢の方々が多いものの、各個の尊重という社会的な意識も高い住民が多い為に、昔の下町のような具合にはプライバシーの垣根を簡単にとりはずすことに躊躇されている方もいらっしゃるようです。でも、いつ

発生するかわからない地震災害です、やはり互助は近隣の住

民同士で、ネットワークとカタカナ言葉をならべたてられると仰々しいかもしれませんが、近隣が顔馴染みになっていれば…まあ肩肘張らずにまずは軽い顔合わせから…ということで防災・夕涼み会のような催しが各町内で定着してきました。



片瀬山地域の特性…

津波は流石に大丈夫でしょう、でも東海・南海大地震の想定震度6強とされている地域もある片瀬山です。ちなみに震度6強とは、立っていることができず、這わないと動くことができない。屋内では、固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。とされています。■木造建物に関しては、耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多く、耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。■鉄筋・コンクリート・造建物では、耐震性の低い建物では、倒壊するものがある。耐震性の高い建物でも、壁、柱が破壊するものがある。 (裏に続く)

(前ページの続き)※ 但し、片瀬山での倒壊率想定は想定震度の割には比較的低いとされている。

■ライフライン ガスを地域に送るための導管、水道の配水施設に被害が発生することがある。一部の地域で停電する。広い地域でガス、水道の供給が停止することがある。■地盤・斜面 地割れや山崩れなどが発生することがある。とされています。

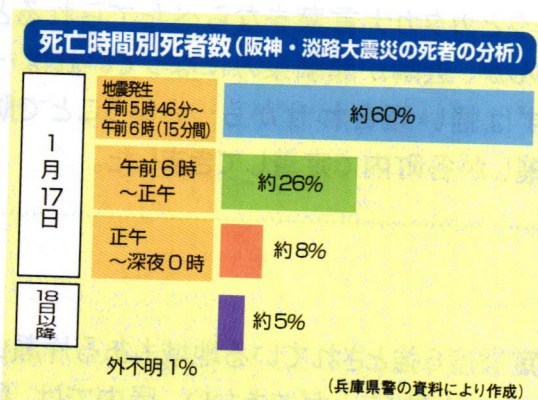
いつ起きるかわからない震災…

片瀬山に限らず、大都市近郊の住宅地域は昼(特に平日)と夜の地域在居者の違いに大きな特徴があります。いろいろな時間帯、あらゆる状況での対応を備えることは容易ではありません。なればこそ、常日頃の想定準備を行い、いざとなったらそれぞれの状況の中で出来る限りの対応をする事が減災の要となるでしょう。

なにをする人?…防災ボランティア

これまで阪神大震災や中越地震、そのほかにも豪雨災害において被災地域外より多くの人達が手弁当で駆けつけ、救援や復興の援助を手伝うといった行動がみられました。これらの人達を防災ボランティアと称します。近隣ネットにおける防災ボランティアは地域住民の中で大地震の発生時に、自助を行い尚且つ余裕のあると思われる方々に前もって登録をしておいて頂き、実際の発災時に身の回りに被害がないもしくは比較的軽微であった場合に近隣の安否確認、出来る範囲での救援活動等に協力を頂こうというものです。消防団のない片瀬山地域、災害の状況にもよりますが、外地域よりやってくる防災ボランティアに比して発災直ぐの活動と何よりそれぞれの地域に明るいことが特徴で、登録しておいていただくことによって、組織立った活動の骨組みを前もって作成しておいたり、近隣の状況に合わせた対応の想定並びに訓練といったものも準備しておくことが出来ます。特に高齢者世帯の多い片瀬山にとって、これら近隣ネットの防災ボランティア達による安否確認を主とした初期対応は重要と考えられます。

安否確認によって要救援者の確認をする事の重要性



阪神・淡路大震災の様な激甚災害と、東海大地震などによって私たち片瀬山が直面するかもしれない被害とは直接は対比出来ないかもしれませんが、しかしながら重篤負傷者に対しては早期の救命が必要との考えは多くの災害例にて報告され、『黄金の72時間』などと称されるそうです。近年はAEDの配備など私たちが救命に関与出来るかもしれないケースも多くなっていますが、まずは要救援者の存在を出来る限り早く確認することで適切な救援を得ることも可能になります。前述のように災害の程度、時間帯などによりいろいろと状況は異なりますが、発災直後の近隣の互助、まずはこの辺がポイントになると考えられます。

編集後記: 前回の防災便り、9号と書いたのですが、実は10号でした、スママセン。



片瀬山防災会

発行: 片瀬山防災会

〒251-0033 神奈川県藤沢市片瀬山 5-17-1

電話 0466-27-6519 (佐藤)